

TADJ vol.7

Takaoka Campus.Faculty of Art and Design Journal

社会から、芸文を思う。

江藤 玲奈 / 造形芸術コース卒業・大学院修了

杉木 涼 / デザイン工芸コース卒業

岩水 成美 / デザイン情報コース卒業

奥野 さつき / 造形建築科学コース※1 卒業

山口 早紀 / 文化マネジメントコース※2 卒業

蒲 由奈 / 造形建築科学コース※1 卒業・大学院修了

※1 2015年度より「建築デザインコース」に名称が変更になりました。

※2 2015年度より「芸術文化キュレーションコース」に名称が変更になりました。



やめたければ、一瞬で やめられてしまう世界

日本画を専攻していた江藤さん。

現在も県内外で展示を行っており、精力的に活動を続けています。



エトウ レイナ

江藤 玲奈

富山県富山市出身

造形芸術コース 2010年度卒業

大学院 芸術文化学研究科 2012年度修了

現在の作家活動について

作家活動としては、ギャラリーでの個展やグループ展、自分たちで企画した展覧会などを行っています。

東京での展覧会の他にも、富山県内で開催するときは美術館関係の方から声をかけていただいていたりもしていますね。



▲日本画で使う道具

ギャラリーでの展覧会では作品を販売することも多いので、自分の絵画の売り上げを作品の制作費に回しています。展覧会には年9回ほど参加していますが、作品のストックが増えてきたら個展をするというよりは、何ヶ月か前に個展のお誘いを受け、それに向けて描くという感じで制作を進めています。最近は人体や動物に関する絵が多く、そのものの動きに注目して描いています。

先輩を目標に

私は芸術文化学部二期生だったので作家活動をしている先輩が身近にいなかったんです。その頃、身の回りで活躍している作家と言えば先生だったけど先生は技術や経験値が自分とは離れすぎていて、実感を持って目標にしにく

いなと感じていました。他の大学の人の話を聞いていたら「作家活動をしている先輩を目標に」と言っていたので、私も作家として活動している先輩がいたら、それをお手本にして自分なりのイメージを持てたのではないかなと、今になって思います。

自分がどれだけやりたいか

ぶっちゃけ、作家活動だけでは食べていけないです。私は週1、2回の介護のアルバイトをしながら作家活動をしていて、この生活は大学院修了直前から3年間続けています。特別に介護に興味があつた訳ではないのですが仕事の時間帯が夕方から次の日の朝までなので、それ以外の時間は作家活動に専念出来るようにこの仕事を選びました。作家活動一本で生活できている作家は本当に少なく、ほとんどの人は仕事をしながら絵を描いています。だから食べていくための副業は絶対に必要だと思っています。絵一本の生活を目指しているかと言うと、そういうわけでもないかなと考えています。



▲スケッチ

分らないから 続けるしかない

就職する気もなくて、大学院を含めて6年間も大学で学んだけども全然納得いなくて、もつと絵を描くことを続けたいなと思ったので今の生活をしています。大学時代に完全燃焼していたのなら良いけど、やはり絵は描いても描いても分らないから続けるしかないなって。最初は親も就職しろと言っていて、作家活動には反対していました。でも、自分の展覧会などで自分のしたいことをアピール出来たので、今では応援してくれています。絵画というのは、やらなかったらやらなかったで一瞬でやめられてしまう世界なんです。だからこそ、自分でリズムを作るしかないですね。学生の頃は大学の課題や展示をこなせば枚数は増えていくけど、ボンと大学から社会に出されると自発的にアクションを起こすしかないと思うんです。具体的なビジョンはまだ見えていませんが、誘われた展覧会には全部参加してみることになっています。

モノの「魅せ方」と「伝え方」

スギキ リョウ

杉木 涼

富山県 富山市 出身

デザイン工芸コース 2010 年度卒業

就活中に一目惚れし、就職を決めた、ミヤモト家具で働く杉木さん。

現在は専務取締役として、お店づくりや自社のマネジメントをされています。

仕事のやりがい

今の主な仕事はインテリアショップでの家具の販売です。その家具に合った照明やカーテンなどの、インテリアをトータルで提案している会社です。基本は、無垢材で本物の木を使用したオーダー家具を取り扱っています。僕自身は、専務取締役という立場で、販売業と兼任しながら戦略を考えたりもしています。カタログ作成から家具の製造、販売、納品、その後のアフターメンテナンスも全て自社で一貫して行うので、ほかの業者に頼むことがほぼゼロなんです。ご購入いただいたお客様が十年後とかに、今度は子供の家具を買いに来ましたとか、テーブルが壊れたので直してくださいとか、そういう人との付き合いがずっと長く続いていくということが、楽しさとやりがいにつながっています。最近の嬉しかったことは、大学時代に仲の良かった友人が結婚して、僕を訪ねて福井から家具を買いに来てくれたことです。僕がいるからって遠方から見に来てくれて。涙出そうになるぐらい、本当に嬉しかったですね！



▲暮らしを提案するディスプレイ

卒業制作の一年間

僕は、渡邊先生（※1）のゼミに入っていたんですけど、デザインに重点をおいていましたね。物を作る技術は高いのに、それを美しく魅せるデザインや方法突き詰めていない会社を見ると、とても勿体なく感じます。僕は製品の「魅せ方」やコンセプトの「伝え方」はとても大切だと考えています。そういうところも色々教えていただいたので、今製品のカatalogや写真撮りは全部僕が担っています。そんなこともあって、卒業制作の一年間は本当に自分の中で実りあるものだったと思います。僕らの会社は物に対する本質的な付き合い方からお客様に話すんですけど、大学で学んだ4年間のおかげで、商品の造りやデザインを理由に基づいて、自分の中に落とし込んでお客様に話せるようになりましたね。

直感を信じて

もともと就活を始めるのは遅かった方でしたが、実を言うと今の職場しか考えてなかったんですよ。大勢の中の一コマじゃなくて、自分一人のウエイトが大きいほうが楽しいと思ったので、とりあえず大きい会社には入りたくなかったんですよ。それで、卒業制作の



テーマにも繋がりのあるインテリアショップ家具業界という括りで探して。学生時代から家具が好きだったので色々なお店を見てまわってはいったんですが、就活を開始するまでこのお店の存在だけは知らなかったんです。初めて見た時は商品含め、店の空気感に一目惚れして、その時点でミヤモト家具以外で働くことは考えていなかったですね。

大切なのは、人を想う心

世の中の専務取締役のイメージは、僕のような若者じゃないと思います。なので取引先に行ってもビックリされるんです。初めは若さというものが大きなハンディキャップとっていましたが、今となっては仕事に歳は関係ないです。大切なのは人を想う心だと思えます。とは言っても、経験値という部分においては、まだまだ未熟なので学びと気付きを繰り返す日々です。これからはミヤモト家具を北陸を代表するインテリアショップへと躍進させるため、代表の右腕として強固な組織づくりに専念していきたいと考えています。

（※1）渡邊雅志（わたなべ まさし）芸術文化学部准教授（デザイン工芸コース担当）



日々変化する “ものづくり”の傍らで

イワミズ ナルミ
岩水 成美

島根県松江市出身
デザイン情報コース 2013年度卒業

高岡市デザイン・工芸センターの職員として勤務されている岩水さん。

行政の立場から高岡の伝統産業を発信する仕事をされています。

高岡市デザイン・ 工芸センター

私が働いている高岡市デザイン・工芸センターでは、「高岡銅器」や「高岡漆器」を中心とした高岡の伝統産業をはじめ、デザインやものづくりによる支援を行政という立場で行っています。公務員といっても、このセンターの職員のほとんどは、美術系大学を卒業していたり、自らも作り手として活動していた人たちです。そんな人たちが集まった行政とクリエイターのハイブリッド的な雰囲気のある職場というのは、他の市にはあまりないかもしれないですね。

伝統産業の仕掛け役

事業では「高岡の伝統工芸を継承しながら、新しいクラフト製品の開発や新技術・新素材の研究・開発などを行い、幅広い視点でデザイン・工芸の振興を図っていく」という軸を掲げています。具体的な仕事として地元作家さんたちに発表の場を提供する「クラフトマンズギャラリー（※1）」を開催したり、伝統工芸技術の継承を目的に週1回、金属工芸と漆工芸のスクールを開講したりし



▲ 漆の変わり塗りサンプル

ています。私も漆のスクールに参加させてもらっていますが、実際に手を動かすことで、はじめて理解できたり、考えることが多くあり

ます。私が在学していたデザイン情報コースに



▲ 製作中の漆器

ただでは到底知ることができなかったことが日々蓄積されていて、よ。やはりこのような職場では、伝統産業に関わる方と話をする機会が多いので、共通言語として技術や知識を習得することは大切ですね。

高岡デザイン情報誌 「MOVIN」

私が一年通って担当している業務のひとつが、「MOVIN」という情報誌の発行です。企画や編集はデザイン事務所に委託しているのですが、センターの発行物として誌面内容を決定したり、取材に同行するなど、クライアントとしての業務を担当しています。この仕事が一番デザイン情報コースの卒業生っぽいですかね（笑）。年に1回、3月に発行しているのですが、年度はじめの4月に企画をして製作を始めても、皆さんの手元に届くのは1年後の話。ですから常にアンテナを張って、情報を集めなければなりません。しかも1年後

に発行されることを前提として。幸いこのような開かれた職場なので、伝統産業界の方をはじめ出会いの機会が多くあるため、新しい情報をキャッチしやすい環境というのとはとても助かっていますし、日々変化していく業界を見ているのとはとても興味深いですね。

高岡での暮らし

私は島根県松江市出身なんですが、いま、仕事をして暮らしていく場所は、高岡しかないと思っています。ここに来たばかりの大学1年や2年の頃はそうは感じなかったんですけど、3年上がる頃に「自分がやりたいと思ったことを、やっていいんだな」と思い始めて、いざやってみると自分のことをちゃんと見ていくと、共感してくれる友達や、先生、まちの人の存在があったことが、とても心強かった。「この前ああいうことやったらいいね。次はこういうことやってみない？」というようなサイクルもできてきたりして、とても楽しかったですね。ここでの生活は何の不自由もないですよ（笑）。なんか困ったことがあっても、親以上に頼りになる人ばかりで。

（※1）富山県内で活動中の工芸・クラフト作家による作品を展示販売するイベント。近年、芸文と連携し2年生を対象とした授業「CGデザイン演習」の課題として作成されたチラシの中から1点を、実際の広報ツールとして採用している。



自分を見つめ直す 四年間を経て

学生時代、プレカットで出る端材の再利用について研究された奥野さん。

現在はウッドリンク株式会社にて設計業務を担当されています。

オクノ サツキ

奥野 さつき

富山県富山市出身

造形建築科学コース^(※1) 2012年度卒業

現在の職場

ウッドリンクには、住宅資材事業部と製材事業部があります。私はその住宅資材事業部で設計業務^(※2)を担当していて、プレカット^(※3)の工場に出す加工データをつくっています。お客様から平面図と立面図をいただき、それに従って構造の骨組みを作っていきます。会社では一日中、出社してから退社するまでCADソフトを触っていますね。



▲プレカットの加工現場

そのデータを作成する上で、お客様の設計図は忠実に再現しなければいけません。この構造では都合が悪いので間取りを変えてください、なんて話、お客様には出さないですね。ですから、手元に来た設計図をどれだけ可能な形に置き換えられるかが、頑張りどころです。

芸文から今に 繋がっているもの

所属していたコースでは、とりあえずなんでもやってみなよ、という風潮に最初は戸惑いました。初めての設計の授業では、まず基本的な事を習得してからかと思いきや、突然課題がパーンと出されて(笑)何をどうすればいいんだろう！って所から

始まり、苦労しました。大変な部分であり、面白い部分でもありますね。だからこそ、少し距離を置いて自分を見つめ直してみたいです。そして、0から1を生み出すことは苦手だと良い意味で気づく事が出来ました。最初は誰でも既存の物の真似から始まると思うんですけど、私はそこから抜け出せず、中々自分の物にする事が出来なかつたんです。それよりも渡されたものを指示通りに流していく作業の方が向いていると感じたんです。

卒業制作は、プレカットで出た端材を使って木工教室を開くというものでした。物を作るということから、世の中が離れて行っている傾向があると感じていたからです。また、高齢者向けに、趣味を確立させて生きがいに繋げられるようなものも目指していました。当時からプレカットで出る端材を提供し



▲普段のCAD業務

てもうために、ウッドリンクにはよく足を運んでいましたね。CAD操作にもこの研究の中で興味を持つようになりましたし、学生時代の研究から今の仕事までは、結構繋がっているんです。

指導してくれる人の大切さ

やっぱり指導者ってすごく大切だと思うんですよ。それによって発揮できる力って違うから。ゼミでの堀江先生^(※4)は、



とても面倒見のいい方でした。私は不真面目な生徒で、言われた事をやってこないんです(笑)。でも

先生は、そのやっていない事に対して怒るのではなく、一緒に考えてくれました。一緒に答えに導いてくれるというか。なので、私にとつてはすごく研究を進めやすい環境でした。堀江先生でなかったら、卒業できたのかすら分らないぐらいです(笑)。

(※1) 2015年度から「建築デザインコース」にコース名称が変更。

(※2) 構造物や機械など設計士やデザイナーの描いた設計図を、CADソフトを用いて正確な図面に仕上げること。

(※3) 家を建てる際に必要な構造物(柱・土台など)を現場で使いやすいサイズや形にあらかじめ工場加工しておくこと。

(※4) 堀江秀夫(ほりえひでお) 芸術文化学部教授(建築デザインコース担当)



今に繋がる六年間

建築を専攻し、学生プロジェクトに参加していた蒲さん。

現在は建築の組織設計事務所に勤務されています。

カバ ユウナ

蒲 由奈

岐阜県郡上市出身

造形建築科学コース^(※1) 2010年度卒業
大学院 芸術文化科学研究科 2012年度修了

今の仕事

私の働いている株式会社アール・ワイ・エーという会社では、駅前の再開発をメインとしたまちづくりを多く手がけています。地方都市では人口減少や建物老朽化、賑わいの創出など様々な課題があります。そういった地域で商業施設、或いは商業施設＋住宅という複合用途の建物を建てるための、事業計画から建物設計・監理までを行っています。その他にも、学校や保育園などの教育施設や福祉センターなど単体建築も手掛けていて、私も1年目から公民館、事務所ビル、中学校等の設計に携わってきました。

学生のときは、皆さんそうだと思いますが、自分のコンセプトをメインとして設計していると思います。でも、実務はそうじゃない。様々な条件があつて、自分が良いと思っても施主には飲み込んでもらえないこともあります。そういうことが絶対的にあるんだということに1年目で

気付いて「あ、仕事としてやっていくのってこういうことなんだ」と思いました。

就職して3年目ですがまだまだ分からない事の方が多いので吸収できるも



▲ 職場の風景1

のは吸収する時間だと感じています。今後はもっとステップアップして、自分で決める力を養っていきたいですね。自分のできる範囲をどんどん増やして、先輩や上の人から仕事を奪うぐらいのやる気を継続していきたいです。

学生時代の活動

学部時の4年を通して関わっていたのは金屋町楽市^(※2)ですね。あとは、楽市で使っていたポリゴニウム^(※3)で仮設住宅を設計するという学内コンペで金賞をいただいて、実際に施工・展示したり、その繋がりで、海外の学生との建築のワークショップに参加したりしました。運のいいことが重なっている人なと出会い、刺激をもらえたことが6年間通して多かったです。大学院では、自分の興味をより専門的に研究できると思います。卒業設計のあたりから「建築とまちづくり」に関心があつたので、修士研究もその延長でした。この視点は今の会社にフィットしているかなと今更ながら思います。また、研究室で「木津の庄コミュニティセンター」^(※4)の基本実設計が出来たのも貴重な経験でしたし、就活時の大きな自信になりました。

学生に伝えたいこと

学生さん達に言いたいことは、いっぱい親ていっぱい考えたら良いよってこと

です。私が学生のときに足りなかったのは、実際の建築をみることでした。学生ってお金はないけど時間は凄くあるじゃないですか。だから、長期休みの半分はバイトして半分は建築を見に行く、みたいなストイックな時間の使い方しても良かったなど、

▼ 職場の風景2



今は思いますね。自分の中に蓄積があることは、会社に入ってから凄く有用だと思っうんですよ。詳しいことは分からなくても「あの建物のあの空間の感じが良かった」というふうに、会社の人との共通言語として話せるのは大事なことだと思います。学生さんは楽しみながらそういう蓄積を増やしていけばいいんじゃないかな。あとにより、会社の後輩が入ってきてくれたらすごくうれしいですね。

(※1) 2015年度より「建築デザインコース」にコース名称が変更。

(※2) 高岡市金屋町全域を使って行うイベント。建築を専攻している学生が会場の屋内外で使用する什器を担当する。

(※3) 金屋町楽市で用いていたアルミ製の什器。隈研吾氏設計。

(※4) 2014年グッドデザイン賞受賞。



作り手に寄り添い、 学び、発見する。

ヤマグチ サキ 山口 早紀

富山県氷見市出身
文化マネジメントコース(※1) 2014年度卒業

学生時代、文化マネジメントコースに所属しながらも

ものづくりを身近に感じながら学んだ山口さん。その経験を生かし、
会社の総務部で働く傍ら、加賀象嵌の保存と発展に貢献されています。

伝統工芸を支える

私は日機装株式会社という、医療機器等の製造を行っている会社の総務部に所属しています。主な仕事内容としては、総務業務一般および、工場見学受入、案内などです。また、この総務部の仕事とともに、日機装がメセナ活動の一環として支援している「公益財団法人宗桂会」という加賀象嵌(※2)の保存、普及および後継者育成を行っている公益財団の仕事も担当しています。

具体的な仕事内容は、日機装が管理する「宗桂会館」という施設に来たお客様への会館の説明や、加賀象嵌のストラップづくりといったワークショップの開催などです。象嵌体験のワークショップでは、作家さんが専門的な技術についての指導をするのですが、私は主にワークショップの企画立案、お客様への加賀象嵌および宗桂会の説明、受付を行っています。このような会館での説明や、作家さんとワークショップの体験内容の打ち合わせを行ったりする中で、大学時代には知ることができなかった「加賀象嵌」についての知識も増えてきました。社会人になってからは、大学時代とは違った「学び」



▲ワークショップの作品

卒業研究

や「発見」の連続で、とても充実した毎日を送っています。

卒業研究で、私は「地域密着型商店街の共同性」というテーマで研究を行いました。実際に対象となる商店街に赴き、現地の方への聞き込み調査や、土地の観察などといったフィールドワークを何度も行いました。そういった実際に体を動かし、自分の興味のあることをとことん追求するスタイルは、大学ならではの学びだと思いますし、地域文化やまちづくりを学ぶことにおいて高岡キャンパスは、とても恵まれた環境にあったと思います。

ものづくりが身近な存在に

就職活動では、いろんな選択肢がありましたが、私は大学で文化政策等を学んでいるうちに、「社会貢献ができる会社に入りたい!」という思いが強くなっていました。就職後、会社の庶務と同時に、宗桂会の活動にも携わることができ、仕事にとてもやりがいを感じています。芸術文化学部において、工芸が自分の専攻領域では無かったものの、コースの垣根を越えて様々な授業を受講できたことが、現在の仕事にも役立っていると強く感じます。文化マネジメントコース(※1)に在籍しながらも、ものづくりを専攻する友人や職人

さんが近くにいたことは、自分にとって、とても刺激的な環境でした。このような環境の中で、芸術文化、文化政策を学べたことで、作り手側の苦勞や制作への思いも、よりリアルに感じられるような気がします。学生時代に様々な作品や人に触れたことで、今の職場

▼宗桂会館内、宗齋の間



で「加賀象嵌」という今まで関わったことのなかった分野に出会ったときも、ワクワクした感情が生まれました。良い環境や、個性豊かな教授陣、仲間に恵まれて過ごした芸文での4年間が、今の私の支えになっています。

(※1) 2015年度より「芸術文化キュレーションコース」にコース名称が変更。

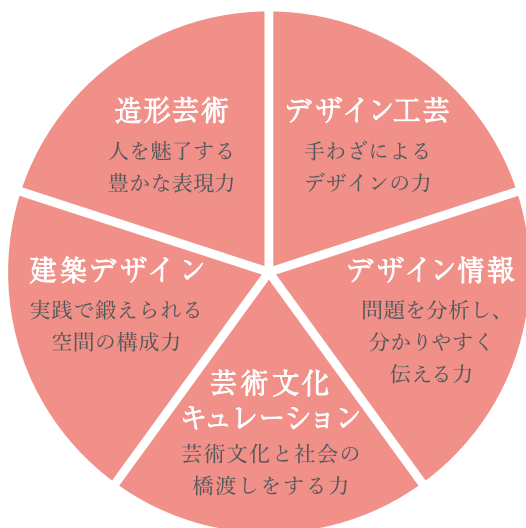
(※2) 金属に模様を刻み、そこに金銀などの材料を嵌め込んで装飾を施す技法。加賀象嵌は江戸時代に武器や刀装具の装飾技術から発達した。

GEIBUN 芸文

芸術文化学部
富山大学 高岡キャンパス

芸文カリキュラムの特徴

5つのコースで身に付くチカラ



芸術文化学部（以下芸文）には5つのコースがあります。芸文のカリキュラムの特徴として、興味のある授業がコースの枠を越えて履修でき、自分に必要なスキルアップはもちろん、専門にとらわれないモノゴトを考える能力も養います。このことを芸文では「融合教育」と呼んでいて、必修科目を極力少なくすることで、科目の選択範囲を広げることができ、柔軟な履修が行えるよう工夫されています。また、コース間の学生の交流も盛んで、専門の違う学生同士が共同でプロジェクトチームを結成するなど、授業外での活動も活発です。地域と連携したプロジェクトや授業もあり、伝統文化が残る高岡市を中心とした富山県全域をフィールドに、社会で必要な実践的な能力を身につけることができます。

TADJ

Takaoka Campus.
Faculty of Art and Design Journal

芸文生がつくる芸文の広報誌。発行に合わせて geibun gallery で展覧会も開催します。企画、デザイン、取材、展覧会、全てを芸文生が行います。

制作スタッフ



井関 紅葉

福島県会津若松市出身
デザイン情報コース

普段はグラフィックを学んでいます。やる気があれば学校の広報誌も作らせてもらえたりもします！授業にバイトに大変でしたが、それもいい思い出です。全てが将来の参考になるいい経験になりました！



手島 萌

岡山県倉敷市出身
デザイン情報コース

先輩方も私と同じ歳のときがあったのだな…と不思議な気持ちです。ファミレスで話し合ったり、作業の合間に食堂に走ったり、朝寝坊していないかを電話で確認しあったり、ザ・学生という感じで作りました。



田中 沙里

和歌山県有田市出身
デザイン情報コース

今回TADJをお手伝いさせてもらって、初めて展示物の制作に携われたり、先輩の卒制の裏話が聞けたりと様々な面で楽しい経験ができました。キラキラした先輩目指して、私も頑張ろう…。



村中仁衣奈

富山県射水市出身
デザイン工学コース

先輩方が、卒業してからも芸文で学んだことを生かしているのが印象的でした。芸文では他コースの分野についても学べたり、様々な体験が出来るので、自分の強みになると思います！



木下佑紀乃

富山県富山市出身
デザイン情報コース

先輩方が学生のときに挑戦したことで得た知識や技術が、今色んなかたちで活かされていてすごいと思いました。私も色んなことに挑戦して、カッコいい社会人になりたいです！



GEIBUN

富山大学 芸術文化学部
大学院 芸術文化科学研究科

〒933-8588
富山県高岡市二上町180番地
TEL 0766-25-9111



geibungallery

芸文生の授業成果や制作活動の発表の場であり、さらに高岡市に存在する様々な文化資源の魅力を発信する展覧会を開催しているギャラリー。

〒933-0029
富山県高岡市御旅屋町90番地1KM ビル1F
TEL 0766-25-6078